

令和元(2019)年度 学校経営計画

☆ 下線部は新規事業

領域	テーマ	方策等	担当部署
学習指導	1 授業改善	指導教諭，授業力向上委員会の支援の下，授業改善に取り組む。 <u>授業アンケートを実施し，評価平均3.0以上を実現できるよう最大限の努力を払う。一方的な課題ではなく，生徒の主体的な学びを支援する課題の提示を工夫する。</u>	教科，授業力向上委，指導教諭
	2 教育課程	次期学習指導要領の動向をふまえながら，必要な教育内容の見直しを図る。 <u>前期課程「道徳」の評価を適切に行う。</u>	学務部，教育課程委，道徳等WG
	3 協同学習	協同学習について研究開発事業やSGHと連携する。主体的・対話的で深い学びを実現する柱として理論的に再整理する。	研究部，授業力向上委
	4 Kobeプロジェクト	卒業研究をはじめとするKPに関する各種書式を統一する。4・5KPの指導体制を強化するため，後期課程を中心に部門ごとの教員カンファレンスを実施する。 <u>『探究の力を育む課題研究』を有効に利用する。</u>	研究部，G推進室
	5 ICT教育	生徒アカウント確保のため，情報基盤センターとの交渉を継続する。ICT教育を発展させ，研修を通じた共有化を図る。次期学習指導要領の動向をふまえ，情報科を中心に <u>ハード面・ソフト面の整備に向けての計画を策定する。</u>	ICT推進室 情報科
	6 食育指導	ESD及び道徳の一環として教科の枠を超えた食育を充実させ，1,2年の給食を授業時間の枠内で実施する。アレルギー対策としてエビパン研修を行う。 <u>今後の給食のあり方を検討する。</u>	栄養教諭 アレルギー疾患委
生徒指導	7 自主活動	行事検討委員会と連携し，生徒会執行部の活動及び生徒による諸行事(文化祭・体育祭・音楽祭等)を支援する。 <u>必要に応じ，執行部と副校長が懇談する。</u>	生徒部 行事検討委
	8 宿泊行事	学校行事改革を継続し，修学旅行及び沖縄研修を成功させる。また， <u>新たに始まるシドニー修学旅行を充実させる。</u> GAP宿泊行事ではSGH課題研究との関連を明確にしつつ，各宿泊行事を成功させる。	各学年，行事検討委，G推進室
	9 部活動支援	「働き方改革」と連動した新規部活動方針の周知を図る。各々は生徒等との意思疎通を図りながら部活動の具体化について検討する。外部コーチ制を拡充しつつ支援員制度の設置を大学に要請する。 <u>部活動の新たなモデル構築を試みる。</u>	生徒部 各部顧問
	10生活指導	シティズンシップ，倫理観，人権意識， <u>自尊心及び公共心の育成</u> に関して，「互いを認めあう」をキーワードに，道徳・HR等を通して，学校としての組織的な教育を行う。	生徒部
	11教育相談	スクールカウンセラーと連携した教育相談事業を継続する。QU活用を定着させ，個々の生徒に応じた学習支援体制を継続する。家庭状況の変化についての研修を行う。	生徒部 教育相談委
	12生徒福利	購買部設置5年目にあたり，生徒会・保護者の要望を踏まえ，必要な改善を検討する。 <u>コピー機の利用改善を図る。</u> 異常気象下の空調については，各種要望等の調査をふまえ財政問題も含め総合的に検討する。	管理職，施設設備委，生徒部
進路指導	13進路指導	後期課程での進路に関する指導を綿密に行うと共に，各種資料の分析などを通して，情報の組織的共有を図る。	学務部 学年
	14進路保障	6年では，生徒の進路希望実現に向けた進路指導・相談を丁寧に行う7回生以降に向けた新制度入試対応を進める。	学務部 学年
	15進路広報	進路情報の公開を継続すると共に，学年保護者会等を通して，前期課程も含めた生徒・保護者への進路広報活動を強化する。	学務部
研究	16キャリア教育	道徳等WGを通して，キャリア教育の関連について理論上の整理を行うと共に，神戸大学day，インターンシップ等の事業を実施する。全学年を通じ，卒業後に自らが立つステージを意識させるキャリア教育に力を入れる。	研究部 道徳等WG 学務部
	17 SGH	SGH指定最終年度。海外研修の改善を図ると共に報告会・公開	研究部

策	研究開発	授業研究会等を成功させる。また、中間評価の結果を受けグローバル意識と教科学力についての検証を行うと共に事業ごとの評価を行う。	G推進室
	18 SGH 課題研究	SGH「課題研究」については、卒業研究の枠組みを利用して継続実施する。4・5年KPを中心に教員の指導体制、評価制度を強化すると共に、SDGsの視点を強化し大学の支援体制を整備する。	研究部 G推進室
	19国際交流 国内研修	経費削減による海外派遣について生徒に言っでの負担を求め、GAPを計画的に実施し、学びの履歴の一環と位置付ける。ケンブリッジCVCとの交流校協定交渉を行う。留学生受入れ等を円滑に進める。ポストSGHの交流を検討する。	G推進室
	20地歴研究 開発	研究開発学校延長3年次にあたり、新科目「地理総合」、「歴史総合」の研究開発を実施する。学術会議等との連携を深め、運営指導委員会、公開授業研究会等を円滑に行う。	研究部 研究開発委、社会科
	21ユネスコ スクール	SDGs（持続可能な開発目標）の視点を強化し、SGH事業とも連携しつつ、ESD・国際理解やアートマイル、フードプロジェクト等のユネスコスクールの取組を継続発展させる。教科でもSDGsを意識した取組を進める。	研究部 G推進室 教科
	22研究活動	公開授業研究会とSGH報告会の1日開催を継続する。各種応募型プロジェクト（ヘルスプロモーション、生物多様性等）を推進する。道徳について実践研究を行う。	研究部 G推進室
危機管理	23安全管理 安全教育	防災訓練を実施し防災意識を徹底する。神戸市の支援を得て、防災備蓄物資の拡充を図る。教員研修の改善、生徒対象の感染症対策、防犯・防災・衛生教育を行う。	危機管理委
	24情報管理	情報管理の改善を図ると共に、必要な情報機器・システムの整備を行う。SGH及び英文ホームページを円滑に運営する。	学務部 ICT推進室
	25施設整備	予算縮減化の中、業者による校舎清掃、必要な学習環境の整備を行う。空調管理、ICT教育環境について検討し充実させる。	施設設備委
学校経営	26学校評議員会	学校評議員会の学校運営協議会（コミュニティスクール）への改組について、神戸大学及び附属学校部と協議しながら検討を進める。	管理職
	27人事計画	職員減少期をふまえ、人事配置計画を慎重に遂行する。また、指導教諭制度等を活用し教員の資質向上に努める。在籍出向制度、長期研修制派遣制度など附属学校部と協議し、進める。	管理職
	28同僚性の構築	授業力・教育実務向上、ハラスメント対策等の研修を実施する。同僚性を高める場として、相互理解、合意形成の場を確保し、校内の授業公開等を活用する。各種プロジェクトや研修出張を支援する。	主幹、課題 検討委、研究部
	29財政措置	予算急減に対応するため、借入金を継続すると共に、緊縮財政を徹底する。教育環境整備費と施設設備充実費の一体化について教育後援会とともに検討する。	管理職
	30働き方 改革	「働き方改革」の提言に基づき、勤務時間管理、勤務時間内における協同業務実施の徹底、業務時期の分散化、部活動等の見直しを行う。公立学校のモデルとなるよう事務室とも協力し、工夫する。	管理職 事務室
	31保護者 対応	学年保護者会のPTA共催方式を継続する。PTSAの活動を推進すると共に、保護者と学校が情報共有できるよう工夫する。	学務部 学年
32適性検査 広報	オープンカール、文化祭、説明会等を通して、入学適性検査の広報活動を徹底する。新たに実施するグローバル適性検査について周知する。	入検推進室	
大学連携	33高大連携	神戸大学との高大接続入試の成果を継承しつつ、「志」特別入試に備える。同時に高大接続入試の検証作業を進める。連絡進学入試について必要な見直しを行う。また、研究開発事業においての管理機関としての役割についても要望する。	高大連携 WG 小中連絡WG
	34一貫教育	附属学校の将来構想の検討の一環として、初等・中等・高等グローバル教育センター発足に伴い、英語・ESD・ヘルスプロモーション等の事業を進める。	一貫教育センター 研究部